

2025年1月10日

長崎県知事

大石 賢吾様

長崎県保険医協会

会長 本田 孝也

(会員：県内医師・歯科医師1,860人)

## 抗インフルエンザ薬の安定供給を求める緊急要請書

大石知事の県民医療の充実・向上のための日夜のご努力に対し、深く敬意を表します。

通常、インフルエンザの感染者数は1月から2月にピークをむかえますが、今年度は昨年12月から急激に流行し始め、第52週（12月23日～12月29日）の定点当たり報告数は82.27人と警戒レベルの30をはるかに超えて、現行の調査が開始された1999年以降で最多を記録しました。

内科、小児科の年末年始の在宅当番医には連日100人を超える患者が押しかけ、検査・治療に追われました。

この爆発的流行の結果、県内の医療機関、調剤薬局では抗インフルエンザ薬のタミフルおよびタミフルのジェネリック薬を注文しても入荷できない、また、入荷の目途が立たないという事態が発生しています。加えて、1月8日に沢井製薬がタミフルのジェネリック薬の供給一次停止の発表し、事態はさらに悪化しました。

タミフル以外の抗インフルエンザ薬にも限りがあり、このままで在庫が尽きれば、「処方できない」「治療ができない」との事態が生じます。

厚生労働省の資料によれば、長崎県の抗インフルエンザ薬の備蓄は令和6年10月末時点でタミフルが14万8千人分、小児用のタミフルドライシロップが3万6千人分とされています。

貴職におかれましては県内のインフルエンザの発生状況、抗インフルエンザ薬の需給状況を即時的かつ正確に把握し、医療機関、調剤薬局が遅滞なく抗インフルエンザ薬を確保できるよう、必要な措置を速やかにとられることを要請します。

以上